

**2021年3月期
第2四半期決算概要**

**加賀電子株式会社
常務取締役 川村 英治**

2021年3月期第2四半期 サマリー

2021年3月期 第2四半期実績	<ul style="list-style-type: none"> ● 売上高は、コロナ禍の中、テレワーク拡大でPC販売が伸びるも、大口取引先との商権・商流の変更による影響大きく受けて減収。 ● 減収にともない販管費縮減に努めるも、営業利益・経常利益ともに減益。 ● 当期純利益は、企業買収に伴う「負ののれん益」計上により増益。 	
主なセグメントの 概況	電子部品	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部品販売ビジネスは、本年4月からエクセルを新たに連結化するも、富士通エレクトロニクスにおいてCypress社代理店権の解消により売上を大きく落とし、減収。 ・ EMSビジネスは、医療向けは堅調も、車載向けや空調向けはコロナ拡大による海外工場の一部操業休止等の影響を受けて減収。
	情報機器	<ul style="list-style-type: none"> ・ PC販売ビジネスは、テレワーク・オンライン授業の拡大により増収。 ・ 住宅向け家電販売ビジネスは減収が続く。
2021年3月期 業績予想	<ul style="list-style-type: none"> ● 一部製造業ではコロナ影響から徐々に回復の兆しあり、加えて、社内計画比で上振れ進捗した2Q実績を踏まえて、前回予想（8月6日公表）から、売上高・営業利益・経常利益を上方修正。当期純利益は先行きを慎重にみて据え置く。 	
株主還元	<ul style="list-style-type: none"> ● 中間配当は、期初予想の通り、1株当たり30円を実施。 ● 期末配当は、現時点では期初予想の1株当たり30円を据え置く。 	



管理本部長の川村でございます。本日は、弊社の第2四半期決算説明会にご参加賜りまして、誠にありがとうございます。私から第2四半期の決算概要についてご説明申し上げます。

まず初めに、第2四半期のサマリーでございます。売上高はコロナ禍の中、テレワークの拡大でPCの販売が伸びるも、大口取引先との商権・商流の変更による影響を大きく受けて減収となりました。減収に伴い、販管費縮減に努めるも、営業利益・経常利益ともに減益でございました。当期純利益は、企業買収に伴う負ののれん益計上による増益となっております。

主なセグメントの概況でございますが、電子部品につきましては、本年4月からエクセルを新たに連結化するも、富士通エレクトロニクスにおいてCypress社代理店権の解消により、売上を大きく落とし、減収となっております。EMSビジネスにつきましては、医療向けは堅調でございましたが、車載向けや空調向けは、コロナ拡大による海外工場の一部操業休止等の影響を受けて減収となりました。情報機器につきましては、PC販売ビジネスは、テレワークやオンライン授業の拡大により増収となっております。一方、住宅向け家電販売ビジネスは減収が続いております。

2021年3月期、当期の業績予想でございますが、一部製造業ではコロナの影響から徐々に回復の兆しがあり、加えて、社内計画比で上振れ進捗した第2四半期の実績を踏まえて、前回の予想、8月6日に公表させていただいておりますが、こちらから売上高・営業利益・経常利益を上方修正しております。当期純利益は、先行きを慎重に見て据え置いております。

株主還元についてでございますが、中間配当は期初の予想どおり1株当たり30円を実施させていただきます。期末配当につきましては、現時点では期初予想の1株当たり30円を据え置いております。

2021年3月期第2四半期 業績ハイライト

(単位：百万円)

	2020/3期 2Q実績		2021/3期 2Q実績		前年比	2021/3期 業績予想		進捗率
売上高	230,630		188,859		▲18.1%	400,000		47.2%
売上総利益	23,771	10.3%	21,641	11.5%	▲9.0%	-	-	-
販売費及び一般管理費	18,531	8.0%	17,206	9.1%	▲7.1%	-	-	-
営業利益	5,239	2.3%	4,434	2.3%	▲15.4%	5,000	1.3%	88.7%
経常利益	5,546	2.4%	4,338	2.3%	▲21.8%	4,500	1.1%	96.4%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	3,502	1.5%	10,772	5.7%	207.3%	10,000	2.5%	107.7%
EPS	127.62	-	392.30	-	-	364.18	-	-
為替レート	米ドル	108.63	-	106.92	-	▲1.71	-	-



業績のハイライトに移ります。売上高につきましては、1,888億5,900万円となりまして、前年比18.1%の減少となっております。当初の対外発表させていただいております売上高は、通期で4,000億円でございますので、進捗率では47.2%となります。営業利益につきましては、44億3,400万円となりまして、15.4%の前年比減益となっております。対外的には50億円で発表させていただいておりますので、進捗率は88.7%となります。

経常利益でございますが、43億3,800万円となりまして、前年比21.8%の減益でございます。対外的には45億円で通期予想を発表させていただいておりますので、この45億円に対する進捗率は96.4%でございます。親会社株主に帰属する四半期純利益は107億7,200万円となりまして、約3倍の207.3%増となっております。通期の当初の見通しでは100億円を予定しておりましたので、こちらはすでに達成しております。EPSでございますが、392円30銭となっております。

2021年3月期第2四半期 セグメント別業績

(単位：百万円)

		2020/3期 2Q実績	2021/3期 2Q実績		前年比
電子部品	売上高	199,818	156,887		▲21.5%
	セグメント利益	4,238 2.1%	3,083	2.0%	▲27.3%
情報機器	売上高	19,968	23,192		16.1%
	セグメント利益	618 3.1%	1,160	5.0%	87.8%
ソフトウェア	売上高	1,332	1,274		▲4.3%
	セグメント利益	46 3.5%	86	6.8%	84.0%
その他	売上高	9,510	7,505		▲21.1%
	セグメント利益	259 2.7%	36	0.5%	▲86.1%
合計	売上高	230,630	188,859		▲18.1%
	セグメント利益	5,239 2.3%	4,434	2.3%	▲15.4%

注：セグメント利益については、各事業部門では調整前の数値を記載し、合計は調整後の数値（営業利益）を記載しております。

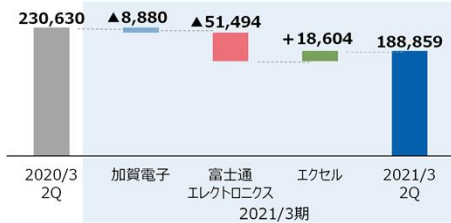
続きまして、第2四半期のセグメント別の業績をご説明させていただきます。電子部品につきましては、1,568億8,700万円となりまして、前年比21.5%減でございました。セグメント利益につきましては、30億8,300万円となりまして、前年比27.3%減となっております。情報機器につきましては、売上高231億9,200万円となりまして16.1%増。セグメント利益につきましては、11億6,000万円となりまして、87.8%増となっております。続いて、ソフトウェアでございますが、12億7,400万円の売上高でございます、前年比4.3%減。セグメント利益は8,600万円となりまして、前年比84%増となっております。その他につきましては、75億500万円の売上高で、21.1%減。セグメント利益は3,600万円となりまして、前年比86.1%減という結果となっております。

2021年3月期第2四半期 M&Aの影響

(単位：百万円)

売上高

加賀電子はコロナ影響により減収、富士通エレクトロニクスは大口商権喪失により大幅減。エクセルは1Qより連結化



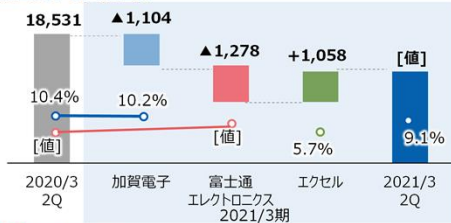
売上総利益 / 売上総利益率

加賀電子、富士通エレクトロニクスともに減益も、販売ミックスが良化し粗利率は改善



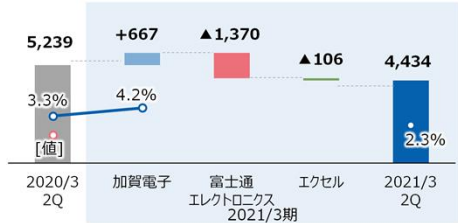
販管費 / 販管費率

富士通エレクトロニクスは経費削減に努めるも、減収影響大きく販管費率は大幅上昇



営業利益 / 営業利益率

コロナ禍の中、加賀電子は減収でも増益確保、利益率も改善



(注) 売上総利益および営業利益については、3社間での連結調整前の数値を記載しております。
なお、連結調整額は売上総利益は▲5百万円、営業利益は5百万円です。

4

続きまして、M&Aで会社が大きくなってきておりますが、この影響がどうであったかをご説明申し上げます。まず、売上高でございますが、前年比417億7,100万円の減収でございました。その内訳でございますが、加賀電子の従来からのグループ会社の合計値では88億8,000万円のマイナスでございました。富士通エレクトロニクスが514億9,400万円のマイナスでございました。新しくグループに入りましたエクセルの売上高は186億400万円でございます。

売上総利益につきましては、グループで21億3,000万円の減益でございました。内訳は加賀電子グループが4億9,400万円のマイナス、富士通エレクトロニクスが26億3,300万円のマイナス、エクセルが10億900万円の増加の要因となっております。また、粗利益率につきましては、加賀電子グループは14.3%と、前年の13.7%から増加しております。それから、富士通エレクトロニクスにつきましても、8.0%の実績となりまして、前年の6.7%から増益となっております。

続いて、販管費でございますが、13億2,500万円、全体では前年比減少となっておりますが、加賀電子グループは11億400万円のマイナス。それから、富士通エレクトロニクスが12億7,800万円のマイナス。新しくグループに入ったエクセルの分が10億5,800万円の増加となっております。最後、営業利益でございますが、グループ全体で8億500万円の減益となっております。加賀電子グループとしては6億6,700万円のプラス、富士通エレクトロニクスが13億7,000万円のマイナス、エクセルが1億600万円のマイナスという内訳となっております。

2021年3月期第2四半期 会社別業績

(単位：百万円)

		2020/3期 2Q実績		2021/3期 2Q実績		前年比
加賀電子	売上高	119,415		110,535		▲7.4%
	売上総利益	16,347	13.7%	15,853	14.3%	▲3.0%
	営業利益	3,952	3.3%	4,619	4.2%	▲16.9%
富士通 エレクトロニクス	売上高	111,214		59,720		▲46.3%
	売上総利益	7,418	6.7%	4,784	8.0%	▲35.5%
	営業利益	1,286	1.2%	▲84	▲0.1%	-
エクセル	売上高	-	-	18,604		-
	売上総利益	-	-	1,009	5.4%	-
	営業利益	-	-	▲106	▲0.6%	-
合計	売上高	230,630		188,859		▲18.1%
	売上総利益	23,771		21,641	11.5%	▲9.0%
	営業利益	5,239		4,434	2.3%	▲15.4%

(注) 売上総利益および営業利益については、3社間での連結調整前の数値を記載しております。

続きまして、第2四半期の会社別の業績をご説明申し上げます。加賀電子グループが1,105億3,500万円の売上高でございまして、前年比7.4%減でございました。売上総利益は158億5,300万円となりまして、前年比3.0%減でございます。セグメント利益は46億1,900万円となりまして、こちらは16.9%増となっております。

富士通エレクトロニクスですが、売上高が597億2,000万円となりまして、こちらは大きく46.3%減となっております。売上総利益が47億8,400万円となりまして、35.5%減です。セグメント利益につきましては、8,400万円の損失となっております。

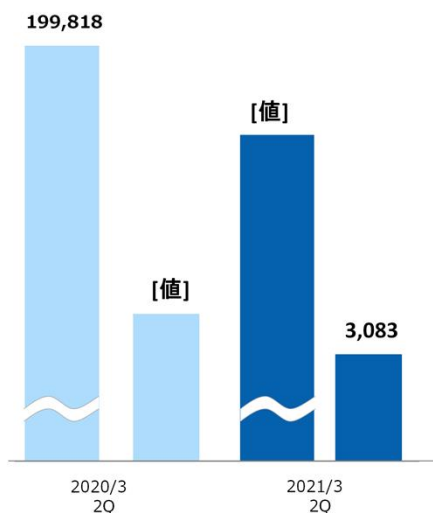
続きまして、エクセルでございまして、売上高が186億400万円でございます。また、売上総利益につきましては、10億900万円となりまして、セグメント利益は1億600万円の損失でございました。

2021年3月期第2四半期：電子部品事業

(単位：百万円)

売上高・セグメント利益

前年比



- 売上高 ▶ ▲42,931百万円 21.5%減
- セグメント利益 ▶ ▲1,155百万円 27.3%減

・部品販売ビジネスは、エクセルのグループ化による増収効果あるも、富士通エレクトロニクスでのCypress社代理店権解消などの影響により減収。

・EMSビジネスは、医療機器向けが堅調に推移するも、車載関連、空調向けは低調に推移。

・新型コロナウイルス感染拡大により、海外工場において一部操業休止や生産調整の影響あり。



セグメントの主なものをご説明申し上げます。まず、電子部品事業でございますが、売上高につきましては、先ほど申し上げたとおり429億3,100万円のマイナスでございました。21.5%減です。それから、セグメント利益は11億5,500万円のマイナスで、27.3%減となっております。この要因でございますが、部品販売ビジネスにつきましては、エクセルのグループ会社化による増収効果がございましたが、富士通エレクトロニクスでのCypress社代理店権解消などの影響で、大きく減収となっております。

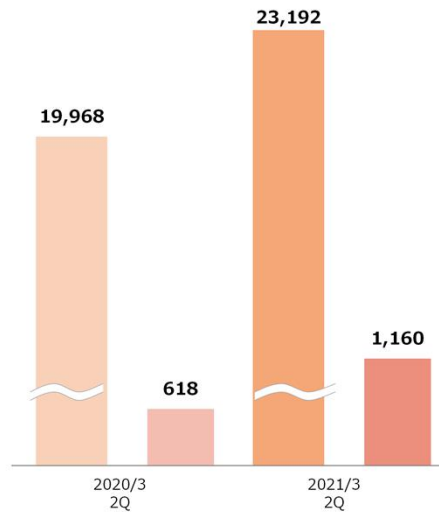
EMSビジネスにつきましては、医療機器向けが堅調に推移するも、車載関連、それから空調向けは低調に推移いたしました。また、新型コロナウイルス感染拡大により、海外工場において一部操業休止や生産調整の影響がございました。

2021年3月期第2四半期：情報機器事業

(単位：百万円)

売上高・セグメント利益

前年比



- 売上高 ▶ +3,223百万円 16.1%増
- セグメント利益 ▶ +542百万円 87.8%増

・パソコンおよびPC周辺機器販売は、コロナ禍の中、テレワーク・オンライン授業の需要増により家電量販店、学校や教育機関向けに好調。

・住宅向け家電販売ビジネスは低調続く。



続きまして、情報機器事業でございます。売上高は32億2,300万円増で、16.1%増でございました。セグメント利益は5億4,200万円の増加で、87.8%増でございました。この要因でございますが、パソコン及びPC周辺機器の販売はコロナ禍の中、テレワークですとか、オンライン授業の需要増により家電量販店、学校、それから、教育機関向けに好調に推移いたしました。一方、住宅向けの家電販売ビジネスは低調に続いております。

2021年3月期第2四半期 業績ハイライト（直近3カ月）

（単位：百万円）

	2020/3期 2Q実績		2021/3期 1Q実績		2021/3期 2Q実績		前年同期比	直前期比
売上高	121,066		84,130		104,729		▲13.5%	24.5%
売上総利益	12,708	10.5%	9,997	11.9%	11,643	11.1%	▲8.4%	16.5%
販売費及び一般管理費	9,319	7.7%	8,341	9.9%	8,864	8.5%	▲4.9%	6.3%
営業利益	3,389	2.8%	1,656	2.0%	2,778	2.7%	▲18.0%	67.8%
経常利益	3,500	2.9%	1,533	1.8%	2,804	2.7%	▲19.9%	82.9%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2,152	1.8%	8,643	10.3%	2,128	2.0%	▲1.1%	▲75.4%
EPS (1株当たり四半期純利益)	78.42	-	314.77	-	77.53	-	-	-

続きまして、第2四半期の四半期ごとの数字をご説明申し上げます。第2四半期の3カ月の実績は、売上高1,047億2,900万円で行いました。前年の同期と比較しますと、13.5%減で行いました。第1四半期の実績値が841億3,000万円で行いましたので、対前四半期比で申し上げますと、24.5%増となっております。

営業利益でございますが、27億7,800万円となりまして、前年比18%減、直前期比で67.8%増となっております。経常利益、28億400万円となりまして、前年比19.9%減、直前期比で82.9%増となっております。親会社株主に帰属する四半期純利益は21億2,800万円となりまして、前年同期比で1.1%の減少、直前期比では75.4%減となっております。こちらは、直前期の第1四半期の時点で、エクセルの負ののれんを計上したことが大きな要因となっております。

2021年3月期第2四半期 セグメント別業績（直近3ヵ月）

（単位：百万円）

		2020/3期 2Q実績	2021/3期 1Q実績		2021/3期 2Q実績	前年同期比	直前期比
電子部品	売上高	105,230	68,196		88,690	▲15.7%	30.1%
	セグメント利益	2,617 2.5%	1,185 1.7%	1,897 2.1%	▲27.5%	60.0%	
情報機器	売上高	9,842	12,537		10,654	8.2%	▲15.0%
	セグメント利益	429 4.4%	583 4.7%	577 5.4%	34.6%	▲0.9%	
ソフトウェア	売上高	895	491		783	▲12.5%	59.2%
	セグメント利益	108 12.2%	▲44 ▲9.1%	131 16.8%	20.5%	—	
その他	売上高	5,097	2,904		4,600	▲9.8%	58.4%
	セグメント利益	186 3.7%	▲101 ▲3.5%	137 3.0%	▲26.2%	—	
合計	売上高	121,066	84,130		104,729	▲13.5%	24.5%
	セグメント利益	3,389 2.8%	1,656 2.0%	2,778 2.7%	▲18.0%	67.8%	

注：セグメント利益については、各事業部門では調整前の数値を記載し、合計は調整後の数値（営業利益）を記載しております。

続きまして、セグメント別の四半期ごとの数字をご説明申し上げます。第2四半期3ヵ月間の、電子部品事業の売上高は886億9,000万円でございます。前年同期比で15.7%減、第1四半期の直前期に比較すると30.1%増でございました。セグメント利益につきましては、18億9,700万円となりまして、前年比27.5%減、直前期比で60%増となっております。

次に、情報機器につきましては、売上高106億5,400万円となりまして、前年同期比8.2%増、直前期比では15%減となっております。セグメント利益につきましては、5億7,700万円となりまして、前年比34.6%増、直前期比では0.9%減となっております。

ソフトウェアは売上高7億8,300万円となりまして、前年同期比12.5%減、直前期比で59.2%増。セグメント利益は1億3,100万円となりまして、前年同期比20.5%増となっております。

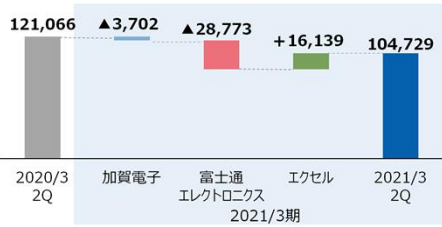
その他でございますが、売上高46億円、前年同期比で9.8%減、直前期比で58.4%増となっております。セグメント利益は1億3,700万円となりまして、前年同期比26.2%減でございました。直前期が赤字の1億100万円の損失でございましたので、こちらは黒字に転換しております。

2021年3月期第2四半期 M&Aの影響（直近3ヵ月）

(単位：百万円)

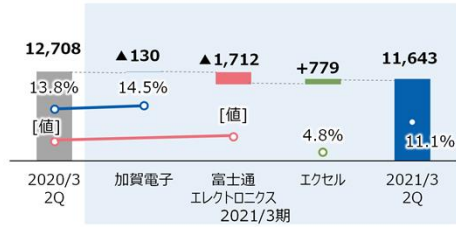
売上高

富士通エレクトロニクスは大口商権喪失により大幅減が続く。



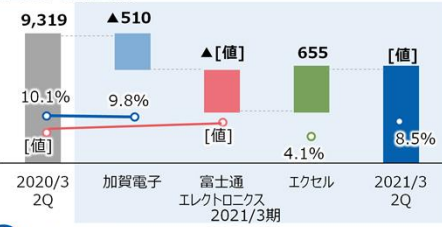
売上総利益 / 売上総利益率

加賀電子はミックス改善で粗利減は限定的



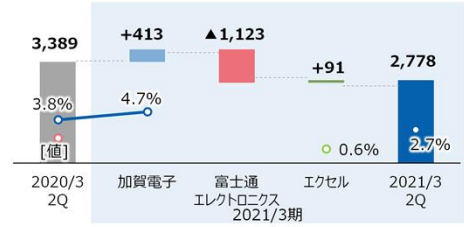
販管費 / 販管費率

富士通エレクトロニクスは経費削減に努めるも、減収影響大きく販管費率は高止まり



営業利益 / 営業利益率

コロナ禍の中、加賀電子は減収でも増益確保、利益率も改善



(注) 売上総利益および営業利益については、3社間での連結調整前の数値を記載しております。
なお、連結調整額は売上総利益は▲2百万円、営業利益は3百万円です。

2021年3月期第2四半期 会社別業績（直近3ヵ月）

(単位：百万円)

		2020/3期 2Q実績	2021/3期 1Q実績	2021/3期 2Q実績	前年同期比	直前期比
加賀電子	売上高	61,744	52,493	58,041	▲6.0%	10.6%
	売上総利益	8,540 13.8%	7,442 14.2%	8,410 14.5%	▲1.5%	13.0%
	営業利益	2,335 3.8%	1,870 3.6%	2,749 4.7%	17.7%	47.0%
富士通 エレクトロニクス	売上高	59,322	29,172	30,548	▲48.5%	4.7%
	売上総利益	4,168 7.0%	2,328 8.0%	2,455 8.0%	▲41.1%	5.5%
	営業利益	1,057 1.8%	▲18 ▲0.1%	▲65 ▲0.2%	-	-
エクセル	売上高	-	2,464	16,139	-	554.9%
	売上総利益	-	230 9.3%	779 4.8%	-	238.6%
	営業利益	-	▲198 ▲8.0%	91 0.6%	-	-
合計	売上高	121,066	84,130	104,729	▲13.5%	24.5%
	売上総利益	12,708 10.5%	9,997 11.9%	11,643 11.1%	▲8.4%	16.5%
	営業利益	3,389 2.8%	1,656 2.0%	2,778 2.7%	▲18.0%	67.8%

(注) 売上総利益および営業利益については、3社間での連結調整前の数値を記載しております。

続きまして、会社別の業績をご説明申し上げます。従来からの加賀電子グループの第2四半期の売上高580億4,100万円でございます。前年同期比で6.0%減、直前期比では10.6%増となっております。売上総利益につきましては、84億1,000万円となりまして、前年同期比1.5%減、直前期比では13%増となっております。営業利益につきましては、27億4,900万円となりまして、こちらは前年比17.7%増と、増益となっております。直前期比では47%増となっております。

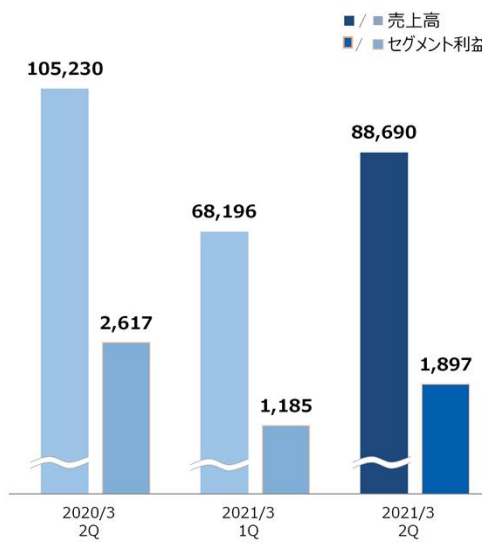
富士通エレクトロニクスにつきましては、売上高305億4,800万円となりまして、前年同期比48.5%減、直前期比では4.7%増となりました。売上総利益につきましては、24億5,500万円となりまして、前年同期比41.1%減、直前期比では5.5%増となっております。営業利益につきましては、6,500万円の損失でございました。こちらは前年が10億5,700万円の利益計上しておりましたので、売上総利益が大きくマイナスに落ち込んだことが要因で赤字となっております。

新しくグループに入りましたエクセルにつきましては、売上高が161億3,900万円となりました。売上総利益につきましては、7億7,900万円となりまして、営業利益につきましては、第2四半期9,100万円の黒字となっております。エクセルグループは、第2四半期から海外子会社が数字に入ってきておりますので、この要因もございまして、第2四半期から黒字に転換しております。

2021年3月期第2四半期：電子部品事業（直近3ヵ月）

(単位：百万円)

売上高・セグメント利益



前年同期比

- 売上高 ▶ ▲16,539百万円 15.7%減
- セグメント利益 ▶ ▲720百万円 27.5%減

直前期比

- 売上高 ▶ +20,494百万円 30.1%増
- セグメント利益 ▶ +711百万円 60.0%増

2021年3月期第2四半期：情報機器事業（直近3ヵ月）

(単位：百万円)

売上高・セグメント利益

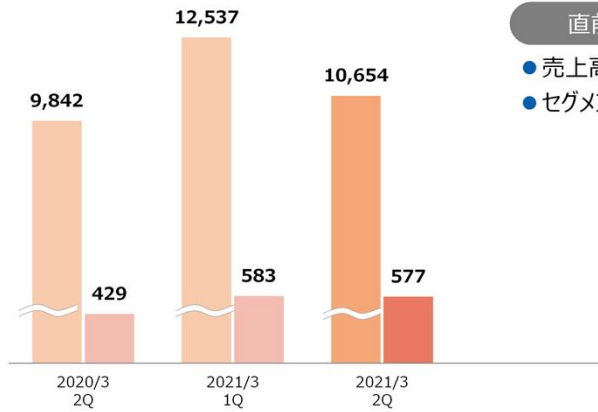
■ / ■ 売上高
■ / ■ セグメント利益

前年同期比

● 売上高 ▶ **+811**百万円 **8.2%増**
● セグメント利益 ▶ **+148**百万円 **34.6%増**

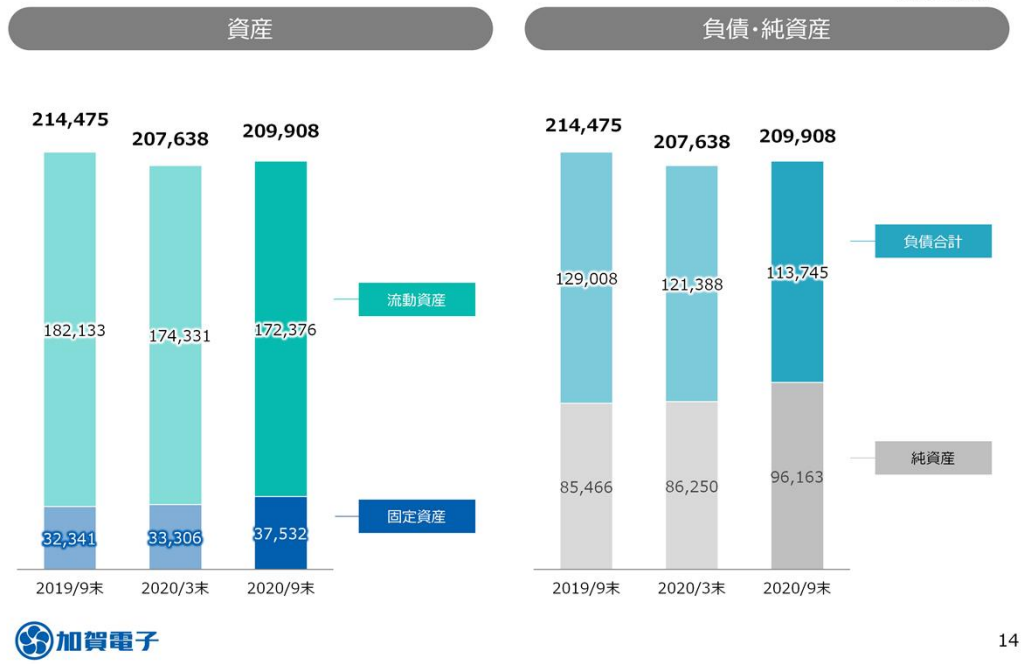
直前期比

● 売上高 ▶ **▲1,882**百万円 **15.0%減**
● セグメント利益 ▶ **▲5**百万円 **0.9%減**



資産/負債・純資産

(単位：百万円)

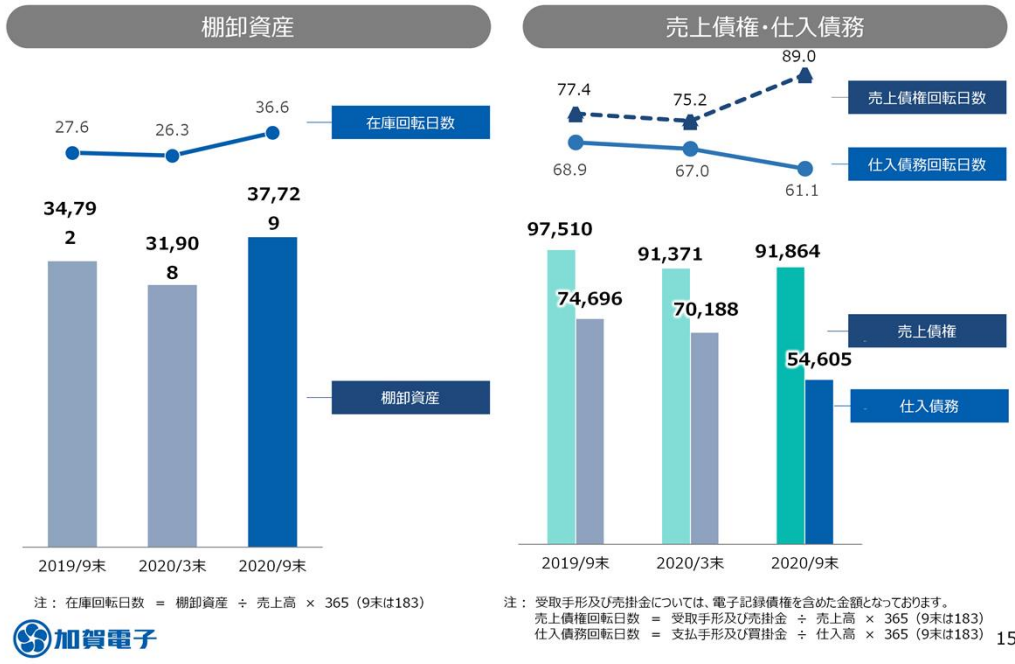


続きまして、バランスシートのご説明に入らせていただきます。まず資産の部でございますが、総資産は2,099億800万円となりまして、3月期に比べますと22億7,000万円の増加となっております。内訳は、流動資産が1,723億7,600万円でございますが、こちらは19億5,500万円の減少です。固定資産が375億3,200万円となっております、42億2,600万円の増加でございます。

続きまして、負債の部でございますが、1,137億4,500万円となりまして、3月期に比べますと、76億4,300万円の減少となっております。純資産は961億6,300万円となりまして、こちらは99億1,300万円増加しております。

棚卸資産/売上債権・仕入債務

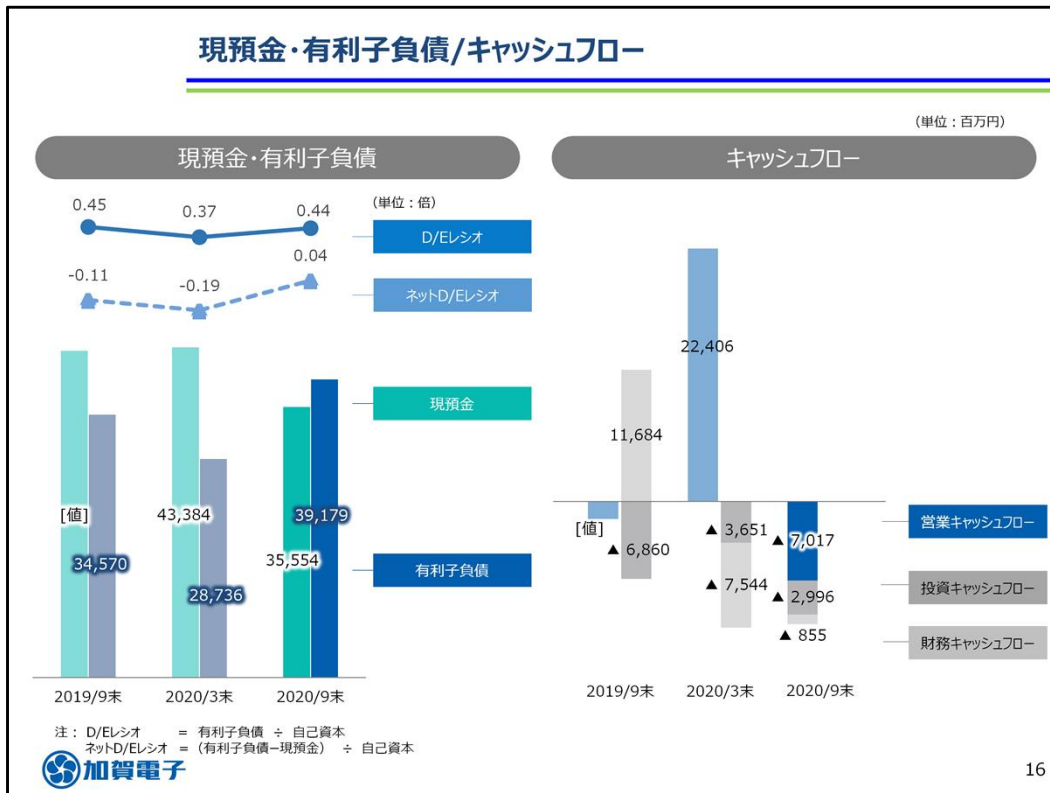
(単位：百万円、日)



資産の内訳でございます。まず、棚卸資産でございますが、377億2,900万円となりまして、58億2,100万円の増加となっております。在庫回転日数は36.6日となっております。売上債権でございますが、918億6,400万円となりまして、4億9,300万円の増加でございます。仕入債務につきましては、546億500万円となりまして、155億8,300万円の減少となっております。売上債権回転日数につきましては89日、仕入債務回転日数については61.1日となっております。



現預金・有利子負債/キャッシュフロー



続きまして、現預金・有利子負債/キャッシュフローについてご説明申し上げます。現預金につきましては、355億5,400万円の残高となりまして、78億3,000万円の減少となっております。有利子負債につきましては、391億7,900万円となりまして、104億4,300万円の増加となっております。D/Eレシオは0.44となっております。また、ネットD/Eレシオは0.04となっております。

キャッシュフローでございますが、営業キャッシュフローは70億1,700万円の使用ございました。投資キャッシュフローにつきましては、29億9,600万円の使用となっております。財務キャッシュフローにつきましては、8億5,500万円の使用となっております。

キャッシュフローに関する補足説明

エクセル子会社化、大口商権の商流変更ならびにコロナ影響などにより、営業キャッシュフローが一時的に支出増となるも、2021年3月期末には反転を見込む。

(単位：百万円)

主な変動項目		2019/9期	2020/9期	
営業活動による キャッシュフロー	● 税引き前当期純利益	5,302	12,126	
	● 負ののれん発生益	-	△7,963	…①
	● 売上債権の増減額 (△は増加)	2,979	10,547	…②
	● たな卸資産の増減額 (△は増加)	4,784	1,835	…③
	● 仕入債務の増減額 (△は減少)	△2,095	△21,540	…④
	● 未収入金の増減額 (△は増加)	△497	1,607	
営業活動によるキャッシュフロー		12,242	△7,017	

当期営業CFの
主な特殊要因

- | | |
|------------|--------------------------------|
| ① 負ののれん発生益 | → エクセル株式取得による負ののれん発生益の調整 |
| ② 売上債権の減少 | → うちFEIの商流変更・コロナ影響等により、+9,138 |
| ③ たな卸資産の減少 | → エクセル中国子会社の在庫販売が進み、棚卸資産が減少 |
| ④ 仕入債務の減少 | → うちFEIの商流変更・コロナ影響等により、△13,851 |

キャッシュフローに関するご説明でございますが、エクセルの子会社化、大口商権の商流変更、ならびにコロナの影響などによって、営業キャッシュフローが一時的に支出増となっておりますけれども、2021年3月期末には反転を見込んでおります。

営業キャッシュフローの内訳でございますが、税引き前当期純利益で121億2,600万円獲得しておりますが、負ののれん発生益で79億6,300万円の支出。それから、売上債権の減少が105億4,700万円、棚卸資産の減少が18億3,500万円、仕入債務の減少が215億4,000万円等が主なものでございまして、70億1,700万円の支出となっております。

2021年3月期 通期業績予想

(単位：百万円)

	2020/3期 実績		2021/3期 前回予想 (2020年8月6日発表)		2021/3期 今回修正予想		前回予想 との差異	前年比
売上高	443,615		400,000		410,000		2.5%	▲7.6%
営業利益	10,014	2.3%	5,000	1.3%	7,500	1.8%	50.0%	▲25.1%
経常利益	10,137	2.3%	4,500	1.1%	7,500	1.8%	66.7%	▲26.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	5,852	1.3%	10,000	2.5%	10,000	2.4%	—	70.9%
EPS	213.21		364.18		364.18		—	70.8%
ROE	7.6		11.8		11.8		—	+4.2pt

最後となりますが、通期の業績予想についてご説明申し上げます。8月6日の時点で通期の業績予想を発表させていただいておりましたが、第2四半期の業績を受けまして、今回売上高を4,100億円と100億円増額させていただきました。営業利益につきましては、75億円と、25億円増額させていただいております。また、経常利益につきましても、75億円、こちらは30億円増額させていただいております。

親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、100億円と、こちらは据え置きのままとさせていただきます。

2021年3月期業績予想修正の考え方：前回予想からの変化

		前回予想		今回予想	
		(単位：百万円)			
売上高	● 加賀電子	240,000	▲5,000	235,000	
	● 富士通エレクトロニクス	160,000	▲35,000	125,000	
	● エクセル	50,000		50,000	
	● コロナ影響 (減収リスク)	▲50,000	(▲40,000)		
	合計	400,000	修正：+10,000	410,000	
営業利益	● 加賀電子	7,500		8,000	
	● 富士通エレクトロニクス	1,000		▲500	
	● エクセル	0		0	
	● コロナ影響 (減益リスク)	▲3,500	▲1,000		
	* 売上総利益減	▲5,000	▲4,000		
* 利益回復	+1,500	+3,000			
	合計	5,000	修正：+2,500	7,500	
当期純利益	● 特別利益：負のれん益	8,000		7,963	
	● 特別損失：構造改善、リスク等	▲1,500	▲3,000		
	● 法人税等	▲1,500	▲2,500		
		10,000		10,000	



この売上高、利益の増額の要因でございますが、簡単にご説明させていただきたいと思っております。前回、売上高4,000億円を発表させていただいたときの内訳でございますが、この時点では加賀電子を2,400億円、富士通エレクトロニクスを1,600億円、エクセルの売上高を500億円と見積もらせていただいております。これがコロナ前で4,500億円だったのでございますが、このときにコロナもございましたので、この減収リスクとして500億円を見積もりまして、差し引き4,000億円で売上高の予想を作らせていただいております。

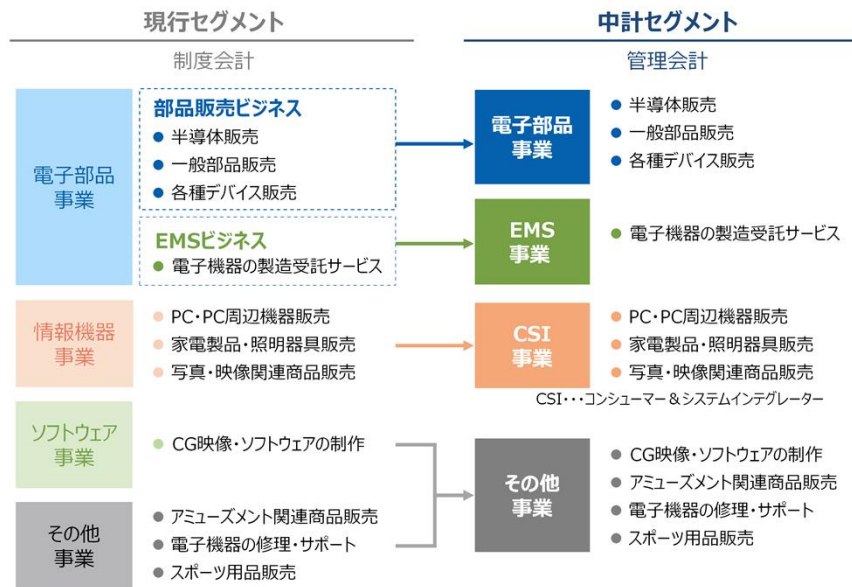
第2四半期の決算を受けまして、この内、加賀電子分が50億円売上高を減少させた2,350億円、富士通エレクトロニクスにつきましては、350億円売上高を減少させて、1,250億円、エクセルは変わらず500億円で、合計で全体で100億円増額の4,100億円の売上高とさせていただいております。営業利益につきましては、コロナ前に加賀電子が75億円、富士通エレクトロニクスを10億円、エクセルはブレイクイーブンで予定しておりました。コロナの影響による減益リスクとして売上の総利益の減少が50億円、利益の回復策として15億円で、差し引き35億円の減益を織り込んで50億円とさせていただいておりますが、今回の結果を受けまして、こちらを10億円のマイナス。内訳は、売上総利益の減少が40億円、利益の回復策等で30億円となっております。結果といたしまして、25億円増額した75億円の営業利益の修正となっております。

当期純利益につきましては、当初80億円の特別利益、こちらにもエクセル買収による負のれん益の計上でございますが、こちらに加えて特別損失。これはグループ全体での構造改革ですとか、事業リスク等、こちらで15億円。それから、法人税等で15億円がございまして、合わせて100億円を当初予定しておりましたが、この内、特別損失等で30億円。それから、法人税等で25億円を見込みまして、合計で据え置きの100億円という予想になっております。

以上のとおり、非常に厳しい環境下で事業を進めておりますが、通期業績では前年に比べますと減収減益でございますが、グループ全体、力を合わせまして業績の向上に向けて頑張りたいと思っておりますので、ご支援の程、よろしくお願いいたします。

ご静聴ありがとうございました。

制度会計としての現行セグメントでの継続開示と併せ、新中計に沿ったセグメントによる任意開示を行う



	電子部品事業	EMS事業	CSI事業	その他事業
加賀電子株式会社				
電子事業部	●	●	(●)	●
EMS事業部		●		
通信事業部	●	●	●	(●)
特機事業部	●	●	(●)	●
営業推進事業部	●			
主な国内グループ会社				
加賀テック株式会社	●	(●)	(●)	(●)
加賀デバイス株式会社	●	●	●	●
加賀ソルネット株式会社			●	
イー・ディー・デバイス株式会社	●			
加賀マイクロソリューション株式会社		●	(●)	●
株式会社デジタル・メディア・ラボ				●
加賀スポーツ株式会社				●
加賀アミューズメント株式会社				●
加賀テクノサービス株式会社			●	
富士通エレクトロニクス株式会社	●			
加賀EMS十和田株式会社		●		
株式会社エクセル	●			
主な海外グループ会社				
加賀沢山電子（蘇州）有限公司		●		
加賀電子（上海）有限公司	(●)	●		
港加賀電子（深圳）有限公司		●		
KAGA (H.K.) ELECTRONICS LIMITED		●		
KAGA DEVICES (H.K.) LIMITED	●			
KAGA (TAIWAN) ELECTRONICS CO., LTD	●	(●)		
KAGA ELECTRONICS (THAILAND) COMPANY LIMITED	(●)			
KAGA COMPONENTS (MALAYSIA) SDN.BHD.		●		
KAGA ELECTRONICS INDONESIA, PT	●	●		
KAGA ELECTRONICS (VIETNAM) CO., LTD.		●		
KAGA (SINGAPORE) ELECTRONICS PTE LTD	●	(●)		(●)
KAGA ELECTRONICS (USA) INC.	●	●		
TAXAN MEXICO S.A. de C.V.		●		
KD TEC s.r.o.	●	●		

(単位：百万円)

		2020/3期 2Q実績		2021/3期 2Q実績		前年比
電子部品	売上高	156,803		117,287		▲25.2%
	セグメント利益	2,127	1.4%	851	0.7%	▲60.0%
EMS	売上高	46,945		42,940		▲8.5%
	セグメント利益	2,100	4.5%	2,265	5.3%	7.9%
CSI	売上高	19,968		23,192		16.1%
	セグメント利益	618	3.1%	1,160	5.0%	87.8%
その他	売上高	6,912		5,438		▲21.3%
	セグメント利益	316	4.6%	88	1.6%	▲72.2%
合計	売上高	230,630		188,859		▲18.1%
	セグメント利益	5,239	2.3%	4,434	2.3%	▲15.4%

注：セグメント利益については、各事業部門では調整前の数値を記載し、
合計は調整後の数値（営業利益）を記載しております。

(単位：百万円)

		2020/3期 2Q実績		2021/3期 2Q実績		前年比
電子部品	売上高	84,698		67,547		▲20.2%
	セグメント利益	1,651	2.0%	807	1.2%	▲51.1%
EMS	売上高	22,425		23,120		3.1%
	セグメント利益	830	3.7%	1,181	5.1%	42.3%
CSI	売上高	9,842		10,654		8.2%
	セグメント利益	429	4.4%	577	5.4%	34.6%
その他	売上高	4,099		3,406		▲16.9%
	セグメント利益	430	10.5%	177	5.2%	▲58.9%
合計	売上高	121,066		104,729		▲13.5%
	セグメント利益	3,389	2.8%	2,778	2.7%	▲18.0%

注：セグメント利益については、各事業部門では調整前の数値を記載し、
合計は調整後の数値（営業利益）を記載しております。

(単位：百万円)

		2020/3期 実績		2021/3期 予想		前年比
電子部品	売上高	292,905		264,000		▲9.9%
	セグメント利益	3,553	1.2%	2,000	0.8%	▲43.7%
EMS	売上高	93,340		85,000		▲8.9%
	セグメント利益	4,015	4.3%	3,000	3.5%	▲25.3%
CSI	売上高	43,466		50,000		15.0%
	セグメント利益	1,707	3.9%	2,300	4.6%	34.7%
その他	売上高	13,902		11,000		▲20.9%
	セグメント利益	623	4.5%	200	1.8%	▲67.9%
合計	売上高	443,615		410,000		▲7.6%
	セグメント利益	10,014	2.3%	7,500	1.8%	▲25.1%

注：セグメント利益については、各事業部門では調整前の数値を記載し、
合計は調整後の数値（営業利益）を記載しております。

『すべてはお客様のために』



問合せ先：IR・広報室

〒101-8629 東京都千代田区神田松永町20番地

TEL:03-5657-0106

FAX:03-3254-7133

E-mail : webmaster@taxan.co.jp

<https://www.taxan.co.jp>

■ 将来見通しに係わる記述についての注意事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

■ 本説明資料における表示方法

数値：表示単位未満を四捨五入

比率：円単位で計算後、表示単位の一桁下位を四捨五入